

広域観光連携「三河・遠州 家康街道プロジェクト」 観光コースの視察

観光委員会は、地域の活力向上につながる先進的な観光の取り組みの調査ならびに会員への情報発信を目的に活動している。5月12日(金)、安藤(隆)委員長をはじめ29名が、2023年NHK大河ドラマで脚光を浴びる「徳川家康」をキーワードにした県を跨いだ観光コースを視察した。

中部地域には、徳川家康ゆかりの寺社や城郭などの史跡が多数あるものの、個々の情報発信に留まり、地域一体でのストーリー性のあるコンテンツ造成や魅力的なPRができていなかった。このような中、(一社)ほの国東三河観光ビューロー(以下ビューロー)は、愛知県岡崎市・静岡県浜松市とともに「三河・遠州 家康街道プロジェクト」を立ち上げ、史跡、寺社、城郭、伝統、逸話、食文化などの魅力をまとめたガイドマップの作成やツアー商品の造成、メディアへのPRなどに取り組んでいる。

本視察会では、家康ゆかりの岡崎城と浜松城、長篠・設楽原の戦いの地である設楽原決戦場(新城市)を訪れ、ビューローのマーケティングディレクター田中三文氏の解説のもと、徳川家康の半生をたどる観光コースを体験した。参加者からは「ストーリーに沿って順序よく観光スポットを巡ることで、その魅力や価値への理解がより深まった」など、広域連携による効果的な魅力の発信方法を学んだ。

今回視察したコースの見どころを一部紹介する。

徳川家康ゆかりの地の見どころ



岡崎城—— 戦国時代のお堀、石工の町・岡崎で作られた家康公を模したベンチ

家康の生地。城内には展望室や過去の城郭・城下町のジオラマが展示されている。城の周囲には、築城時に作られた「清海堀」と呼ばれる堀があり、北面は石垣づくり、南面は土づくりと異なる構造で作られているのが特徴である。また、石工の町・岡崎として職人の技術と地元産の良質な御影石を用いた「家康公・竹千代像ベンチ」なども見どころ。



岡崎城と家康公・竹千代像ベンチ



清海堀(右側が石垣づくり)



浜松城—— 現存する石垣と井戸

歴代城主が江戸幕府の要職に登用されたことから出世城と呼ばれる。

1570年に家康が武田信玄の駿河侵攻に備えて築城。築城当時の石垣や籠城戦に備える井戸が天守地下に現存しており、家康率いる家臣団が戦乱の世をどのように切り抜けたかを垣間見ることができる。



浜松城



天守地下の井戸



設楽原決戦場—— 武田軍の騎馬隊を食い止めた馬防柵

信玄没後の1575年、織田信長・徳川家康連合軍が武田勝頼と戦った「長篠・設楽原の戦い」にて、武田軍の騎馬隊の突撃を防いだ馬防柵を再現。信長の鉄砲三段撃ちで有名な「長篠合戦図屏風」では広大な土地のイメージがあるが、実際は狭小な土地である。連合軍は武田軍をこの地に追い込み、騎馬隊の機動力を削ぐことに成功した。

連合軍側から見た景色 ▶



(企画部 小早川 健吾)